



平成27年11月発行  
京都市立光徳小学校  
前期:学校評価号



☆学校教育目標☆  
すなおで、なかよし、のびゆく、われら！

7つのコンセプト						
学 力 向 上	人 権 尊 重	生 徒 指 導	言 語 環 境	環 境 整 備	連 携 強 化	協 調 協 働

## アンケートの結果から

	児童	男子		女子		平成27年度		平成26年度	
		できて いる	できて いない	できて いる	できて いない	できて いる	できて いない	できて いる	できて いない
1	すすんで べんきょう する	80%	20%	87%	13%	79%	21%	86%	14%
2	べんきょう(じゅぎょう)が よくわかる	90%	10%	97%	3%	91%	9%	87%	13%
3	いえで じかんをきめて しゅくだい や べんきょうを している	61%	39%	71%	29%	64%	36%	74%	26%
4	がっこうでも いえでも すすんで ほんを よんでいる	66%	35%	78%	22%	69%	31%	71%	29%
5	がっこうは たのしい	88%	12%	98%	3%	91%	9%	92%	9%
6	がっこうや がっきゅうの きまりや やくそくを まもっている	78%	22%	96%	5%	86%	14%	90%	10%
7	ともだちと たのしく すごしている	89%	11%	98%	2%	93%	6%	96%	3%
8	じぶんから すすんで あいさつ(「おはよう」「ありがとう」「さようなら」など)をしている	76%	24%	92%	8%	85%	15%	86%	14%
9	がっこうを きれいにするために そうじを がんばっている	75%	26%	97%	3%	84%	16%	89%	11%
10	やすみじかに そとで げんきにあそんだり すすんでうんどうしたりしている	90%	10%	70%	30%	76%	24%	79%	21%
11	はやね はやおきをし あさごはんを たべている	79%	21%	81%	19%	76%	23%	82%	17%

	保護者	平成27年度		平成26年度	
		できて いる	できて いない	できて いる	できて いない
1	子どもに基礎的な学力が身につくこと	92%	8%	84%	16%
2	子どもにわかりやすい授業であること	88%	12%	89%	11%
3	子どもに家庭学習習慣がつくこと	60%	40%	62%	38%
4	子どもに読書習慣がつくこと	45%	55%	43%	57%
5	子どもが楽しく学校に通うこと	96%	4%	93%	7%
6	子ども一人一人が大切にされること	95%	5%	90%	8%
7	子どもがきまりや約束を守ること	92%	8%	83%	17%
8	子どもが思いやりの心をもつこと	90%	10%	93%	7%
9	子どもが進んであいさつをすること	69%	31%	70%	30%
10	子どもが健康な体をつくること	96%	4%	84%	16%
11	子どもが安全に気をつけた生活を送ること	93%	7%	95%	5%
12	子どもが早寝・早起き・朝ごはん等の基本的生活習慣を身につけること	76%	24%	74%	26%
13	保護者が学校に相談しやすいこと	84%	16%	84%	16%
14	保護者が学校便り・学年便り・学級便り・ホームページ等で、学校の様子を知ること	90%	10%	90%	10%
15	保護者がPTAや地域の行事に参加すること	79%	21%	79%	21%

左の表は、アンケートの結果で、「実現度」を表したものです。  
①「よくできている」「だいたいできている」は「できている」  
②「あまりできていない」「できていない」は「できていない」  
にまとめてあります。また、「わからない」と回答があった項目は、合わせて百%になるように数値を修正しています。

### (1) 学力向上・言語環境

「べんきょうがよくわかる」児童は90%以上で昨年度よりも増えています。しかし、男女差があり、女子児童のほうが良い結果になっています。保護者の結果からも「基礎的な学力が身に着くこと」ができていると回答している割合が90%以上あり昨年度よりも増えています。児童に基礎学力が身に付いていると考えられます。

しかし、児童の「すすんでべんきょうする」「いえでべんきょう」する割合が減っています。学力向上には、学校の学習と家の学習の両輪が欠かせません。どちらかだけががんばっても伸びていきません。

学校では、児童の学力向上のため、教師がさらに「分かりやすい授業」を研究してその改善に努力していきます。ご家庭でも、家庭学習習慣が付き、時間を決めて進んで学習できるよう、テレビ・ゲームなどの時間を考えるなど、ご協力お願いします。

また、学力向上には「読書」も大切です。児童・保護者・教師ともに「読書」が十分にできていないと感じています。本を読むことが習慣となるような読書指導をさらに進めていきたいと思います。

### (2) 人権尊重

「がっこうはたのしい」「ともだちとたのしくすごしている」児童は90%以上でほぼ昨年度並みです。しかし、男女差があり、女子児童のほうが良い結果になっています。保護者の結果からも「子どもが楽しく学校に通う」「子ども一人ひとりが大切」「子どもが思いやりの心を持つ」で回答している割合は昨年度並みで90%以上です。しかし、「がっこうがたのしくない」「ともだちとたのしくすごしていない」児童が少しでも存在することは大きな課題です。すべての児童の人権が大切にされるためにも、学校は児童一人一人にさらに目を向けていきたいと思います。

### (3) 環境整備

「そうじをがんばっている」児童は84%でした。昨年比べてやや減っているものの、昨年並みです。身の回りの環境が整備されていることは心の安定につながります。また、自ら身の回りの環境を整えることに関わることでさらなる心の満足感が芽生え、心が安定してきます。

掃除時間に教職員は、児童と一緒に掃除するだけでなく、その他の時間にも学校を見回りながら学校環境の整備に努めたり、担任を中心に教室の学習環境にも気を配っています。今後も児童の健やかな成長に向けて、環境整備に努めてまいります。

#### (4) 生徒指導

「がっこうやがっきゅうのきまりややくそくをまもっている」児童は86%でした。昨年に比べてやや減っているものの、約10%以上の児童が守れていません。また、保護者の回答からも10%近く減っています。

社会生活の中で『きまり』や『やくそく』、また『学習規律』などは社会生活を安心して過ごすための大切なものです。守れない人間は『信用』を失ってしまいます。これらの取組は全校体制でさらに徹底していくとともに、教職員も児童の模範となるような行動をして信頼されるようにしてまいります。

また、「じぶんからすすんであいさつする」児童は85%で、ほぼ昨年並みです。同じ項目で保護者・教職員もほぼ昨年並みでした。あいさつの取組は、朝の校門指導に始まり、あいさつ運動や標語作り、学級指導などで進めています。より以上の広がりが出ていません。

あいさつが自然にできることは、今後社会に出てから大切なことです。あいさつがしっかりとできないと『信用』にも関わってきます。逆にできると人間関係の広がりもできてきます。

その意味では、あいさつは学力とともに大切な課題であると考えています。今後取組を見直したり強化したりして進めていきたいと思っています。

「やすみじかに そとでげんきにあそんだり すすんでうんどうしたりしている」児童は昨年とほぼ同じで76%でした。昨年に比べてやや増えているものの、約20%以上の児童がしていません。また、「はやね はやおき あさごはんをたべている」児童は76%で昨年よりも減っています。20%前後の児童ができていません。保護者の回答からも25%前後の児童が「基本的生活習慣ができていない」となっています。

生活リズムが乱れた状態で授業に臨んでも十分な力が発揮できず、しっかりとした学力が付いてきません。また、休み時間になっても外に出て遊ぼうという気になれません。

学校では、長期休み明けに「生活点検」を行い、それを通じて生活リズムの大切さを指導しています。しかし、お家での指導が基本です。ゲームやテレビなどをやりすぎて生活リズムを崩さないよう、お家での生活スケジュールを子どもと話し合っ

また、「保護者がPTAや地域の行事に参加すること」昨年と同様79%です。すべての行事に参加することは大変かと思います。しかし、少しでも関わることで光徳校地域に在住する他の大人たちのつながりができると、子ども関わりができてきます。子どもたちが地域社会の中で見守られ社会性をはぐくむためにも、できる限り参加いただくようよろしくお願いします。

#### 学校評価推進委員会から

10月21日（水）に実施した学校評価推進委員会では、「学校評価アンケート」を基にした協議を行いました。協議にご参加いただいた委員の方々から、以下のような貴重な意見をいただきました。

今後の学校運営に生かしていきたいと思っております。どうもありがとうございました。

- ◎朝ごはんを食べさせるように保護者に喚起していただきたい。朝ごはん食べる運動必要なのでは。
- ◎民警懇談会から分かったが、文化の発展を利用する詐欺犯罪がある。それに対応する教育も必要なのでは。
- ◎児童がきまりを守れないことを保護者は知らないのでは。学校と保護者のコミュニケーションが必要。
- ◎学校の落とし物に名前が書かれていない。体育服も置いてある。2枚中1枚なかったら、「学校で探しておいで」と言わないのか。持ち物に関しては家庭が責任を持つほうがいいのでは。忘れ物をするのはよくない。家庭でもチェックする必要がある。あいさつも朝ごはんも集団登校で行けるようにすることが大切。
- ◎きまりを守れていない子どもが増えているが、小さなきまりでも守るよう教職員も保護者も見ていくことが必要なのでは。
- ◎読書量が少ないのはなぜか。家庭での読書が大切なのでは。
- ◎児童の積極性が低いような気がする。ゲームやテレビに依存しているからでは。
- ◎あいさつの数値が低いのが気になる。家でも積極的にあいさつするよう声かけが必要。

#### (5) 連携強化・協調協働

「保護者が学校に相談しやすい」保護者は84%でした。昨年とほぼ同じです。しかし、「相談しにくい」と感じられている保護者もいます。児童の成長など様々な課題について必要なことは教職員と相談しやすい関係を気づくことが大切だと考えています。なにかありましたら、ご相談いただきますようよろしくお願いします。